

「森の声キャンプ」(R 4.10.15 (土) ~10.16 (日))

◆ 目的

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響で、直接体験の機会が減少していることをふまえ、親子で自然体験活動に親しむきっかけを提供する。
- ・ 自然の家の森林を活用することを通して、SDGs15 (陸の豊かさを守ろう) のテーマを体感し、自ら考える機会を提供する。

◆ 参加実績

- ・ 小学3~4年生の子を含む家族
- ・ 福井県、滋賀県、愛知県より、12家族38名 (小学生21名 保護者17名)



↑集合写真 (こどものみ)
「森の中で、森と海を感じよう」内のプログラム、
「森の住人を見つけよう」の時の写真



↑アイスブレイクの様子
家族紹介の内容を考えているところ

◆ 日程

日付	10/15(土)	10/16(日)
午前	/	
午後	13:00 受付開始 13:30 開会式 13:45~14:30 アイスブレイク 14:45~16:30 森の中で、森と海を感じよう 16:30~17:00 休憩 17:00~17:40 夕食(レストラン) 17:40~18:20 休憩	9:00~11:00 親VS子ども 森でフードハンティング 11:00~13:30 親VS子どもアウトドアクッキング 13:45~14:00 ふりかえり 14:00 閉会式 14:30 解散
夜	19:00~20:00 大人:交流会 子供:森と海のクラフト 20:00~21:00 入浴 21:00 就寝	/

◆ 成果

- ・ 親子で協力して葉っぱや枝などを集めたり、拾った自然物を使い創作したりして自然に親しむ時間を提供できた。また、子どもや保護者から、「自宅に帰ってからでもできそう」(写真①: 森の住人を見つけよう) という声を直接聞いたことから、身近な自然体験活動に親しむきっかけを提供することができたと考える。
- ・ 五感を使って森と海を感じる活動 (写真②: サウンドマップ) や森と海のモノを使った活動 (写真③: 森と海の美術館を作ろう)、クラフト (写真④⑤: ジェルキャンドル) などを通して、SDGs 15 (陸の豊かさを守ろう) を体験しながら考える機会を作れた。



↑写真①: 森の住人を見つけよう
自然物に目玉をつけ、住人を見つけている。

◆ 参加者の声

【子ども】

- ・ いつもは森などに入らないのでいつもとちがう音が聞けてまた来たいなと思いました。
- ・ 森はみたことがない葉っぱや実がいろいろあったし、海はとていい景色だったのでよかったです。
- ・ 森の住人をもっと集めて目や口をつけてあげたいです。
- ・ どの料理もとてもおいしかったし、野外炊事などもとても勉強になりました。
- ・ ジェルキャンドルをもう一度やりたいです。



↑写真②: サウンドマップ
目を瞑り、自然の音を聞いているところ。
聞こえた音を、形や模様で表現してもらった。

- ・ いろんな葉っぱがオレンジ、黄色になって、枯葉になっていたから秋だなと思った。

【保護者】

- ・ 「親子で参加」が良かったです。親子で何かをするって大切ですね。
- ・ とてもいやされました。また、体を動かすことで運動不足解消にもなりました。
- ・ 親がついてはできないことをできたと思います。ありがとうございました。
- ・ 森と海が仲よしというのを意識しながら歩いてみると、森の美しさ・海の美しさがまた違って見えました。
- ・ 子どもとの対決、手に入れた食材でメニューを考える、物々交換、全部試食して投票するなど、どれも楽しく面白く良かったです！

◆ 事業運営のツボ・工夫・反省

【準備】

- ・ 担当で事業に対し共通認識を持つために、事業のイメージ資料（写真⑦）を作成し、共有した。また、プログラムを各担当に振り、それぞれに「プログラムデザインシート」（写真⑧）を記入してもらい、事業の進捗を随時確認できる体制を取ったおかげで、全員で状況を確認しながら進めることができた。
- ・ 昨年度は、近隣公共施設にチラシを配架し広報を行ったが、応募状況が良くなかった。その反省を活かし、今年度は福井県嶺南地域の全小学校にチラシを配布し広報を行った。その結果、定員の2倍近くの応募があった。

【運営】

- ・ 1日目は、親子で体験する。2日目は、親同士、子ども同士で体験し競い合うという流れでプログラムを組んだ。事業で初めて会った親同士、子ども同士の関係性を深めるため、1日目の夜の時間を使ってそれぞれ交流を図った。（親：交流会/子ども：森と海のクラフト）
- ・ SDGsの視点を意識してもらうため、「森の中で、森と海を感じよう」の時間に「森と海の美術館」を作る活動を行った。森で拾った植物、木の枝や落ち葉と浜で拾ったシーグラスや漂着物などを使い、一つの作品を作る。ビーチコーミングと似た要素もあり、拾ったモノがどこからきたのか？どんなものだったのか？などの声掛けをすることでSDGsについて考えてもらう意識づけをした。ただ、12家族38名の団体のプログラムをメイン担当一人で管理するのは難しく感じた。参加者が前後に分かれてしまい、先頭集団には森を見ながら説明ができるが、後方集団にはほぼ声が届かない状況が生まれ、全体が揃ってから説明を再度行うなどの必要が生じてしまった。安全管理のために団体の間に入っていた職員に森の説明をしてもらったり、団体をグループ分けして先導して貰ったりすれば、プログラムはより効果的になったと考える。
- ・ 「森と海のクラフト」では、午前中拾った自然物を使いジェルキャンドルを作成した。ジェルを溶かすのに予想以上の時間がかかってしまい、活動時間内に完成させるので手一杯になってしまった。作品を発表する時間が取れず、ふりかえりまでできなかった。
- ・ 研修支援団体が、ハイキング等で利用している自然歩道を使い「フードハンティング」を行った。親子別々のグループでコースを自由に散策してもらうため、1日目の「森の中で、森と海を感じよう」も同じ自然歩道を使用した。1日目は職員が先導し、2日目の「フードハンティング」は参加者主導という流れとした。安全管理と道迷いの対策として、他コースとの分岐点等に職員とボランティアを配置した。ラミネートした動物のイラストをコース内に隠したが、ほとんどが子どもグループに取られてしまった。今回は子どもが見つけやすいように「子どもの目線」を意識して隠したが、今後は動物に合わせ、落ち葉の下や木の少し高い所、沢の中や木の根など安全面に気を付けながら隠す場所を工夫するべきだと感じた。
- ・ 「アウトドアクッキング」では、親と子どもそれぞれのチームで調理を行った。また、自然と話し合いをしてもらうべく、「フードハンティング」で取ってきた食材でしか調理ができないなどの制限付きのアウトドアクッキングとした。多種多様な料理が完成した一方で、チームごとに刃物や火を扱うタイミングがばらばらとなったため、危険な個所を見るためには、職員の数と配置を状況に合わせて対応する必要がある。
- ・ 1日目はゆとりをもって活動ができたが、2日目はプログラムの時間を確保するべく朝早くからの開始時間とな



↑写真③：森と海の美術館
拾ったモノで作品を作成中。



↑写真④：ジェルキャンドル
シーグラスや若狭めのうを選びデザインを考えているところ。



↑写真⑤：完成したジェルキャンドル

ってしまい、参加者に負担を与えてしまった。余裕のある事業計画をすることが基本ではあるが、止むを得ず時間が限られる場合は、二次案内のメール等で事前にお知らせできれば丁寧だった。また、活動ごとに持ち物や集合時間のスライドをスクリーンに映した。振り仮名を振り、視覚的にも分かりやすく伝わるようなできる限りの工夫をしたおかげで、子どもたちがそれを見て次のプログラムの準備をすることができた。



↑写真⑥：アウトドアクッキング
子どもチームがゲットした食材で何を作るか考えているところ。

目的

- 新型コロナウイルス感染症の影響で、直接体験の機会が減少していることをふまえ、親子で自然体験活動に親しみかけを提供する。
- 自然の家の森林を活用することを通して、SDGs15（陸の豊かさを守る）のテーマを体感し、自ら考える機会を提供する。

目標

- 親子で自然体験活動を楽しむことができた。
- 五感で森を感じ、たくさんの生き物や植物を見たり、触れたりすることができた。
- 自然体験活動を通して、森と海の繋がりがや課題を発見することができた。

※目的に向かうための目標

目標→目的に向かうためのプログラムデザイン

- 家族団らんや交流する時間なども考慮し、ゆとりのあった日程構成とする。
- 親子で協力したり、対決したりする活動や、親子別の活動を入れ、それぞれに充実した時間を提供するとともに、より仲を深めてもらうきっかけとなるような機会を設ける。
- SDGsの視点（特に森と海の繋がりを意識したプログラムを入れる。また既存プログラムを活用しながらも、研修支援団体に提供できるような新プログラムの可能性を探っていく。

※海活動という若狭湾の魅力を使わないでどう他施設と差別化を図るか

↑写真⑦：事業イメージ資料

事業の目的と目標、それに向かうためのプログラムデザインなど、主担当の想いを伝えるための資料。この資料をもとに事業打ち合わせなどを進めていった。



森の声キャンプ

プログラムデザインシート

作成日：令和4年10月9日
企画者：島田翔太

●プログラム名

森の中で、森と海を感じよう

●基本情報

- ◇ねらい（子どもに“わくわく”を感じさせるために）
 - ・ 自然物に興味を持ってもらう
 - ・ 五感で自然を感じてもらう
 - ・ 森と海の繋がりを意識してもらい、どんな発見・課題があるか見つけてもらう

- ◇対象者／目指すゴール（参加者のこんな様子や姿が見られたら成功！）
 - ・ 自然物に興味を持ち、たくさんの生き物や植物を発見している
 - ・ 五感を使って森を感じ、その様子を言葉や絵で伝えている
 - ・ 森と海の繋がりについて自分なりの考えを持つことができた

◇日時

10/15（土）14:45～16:30

◇場所・会場（雨天時などの天候対策）

・ 自然歩道、岩の沢、大浜 / 雨天時 大階段、ブレイH

◇運営者（人員、役割）

・ 進行：島田 補助：ボラ

◇準備物（具体的にイメージ）

□熊ずす □バインダー □筆記用具 □油性マジック □目玉シール □救急セット □無線 □ゴミ袋 □バケツX家族分

●リスク・対処方法

想定されるリスク	その対処方法
・ 怪我	・ 救急バッグを用意しておく。重度の怪我であれば事務室に連絡。
・ 道迷い	・ 基本は全体で行動し、家族ごとの時間は目が届く範囲で活動を限定する。
・ アクティビティが難しい	・ 職員、ボラがサポートに入る。

1

森の声キャンプ

- ・ 時間が足りない
- ・ 状況によってアクティビティを変更する。後ろの時間が休憩なので多少遅れても大丈夫かと思われる。

●内容（実施スケジュール、内容詳細、必要物品、留意点など、可能な限り詳細を書いてください。）

時間	手順・内容
14:45	スタート 研1～自然歩道～岩の沢へ（1号棟～大階段の自動扉から履き替えて出発）（35分） ※2日目のコースであることを伝える ※家族ごとに採取しながら進む ※森と海美術館のために、木の葉や枝、シーグラスなどを拾ってもらおう
15:20	◆ 岩の沢到着 ● 五感で森を感じよう -サウンドマップ-（10分） <ul style="list-style-type: none"> ○ 1分間目を繰り返し、聞こえた音を記号や模様で表す ○ 家族で共有する ● 森の住人を見つけよう（10分） <ul style="list-style-type: none"> ○ 木や葉っぱに目玉シールを付けて、住人を見つける ○ なぜ、それに目玉を付けたのか家族で共有する ● コノ木ノ木（15分） <ul style="list-style-type: none"> ○ 家族内で目を隠る人、案内する人に分ける ○ 案内人が、森の中のどれか木に案内する ○ 目を隠った人は木の感触を覚えておく ○ スタート位置に戻り、目を開け、自分がどの木に触ったか当てる ○ やってみてどうだったかを家族でふりかえる
15:55	● 裏バス～大浜にかけてビーチコーミング（15分）
16:10	● 森と海美術館（20分） <ul style="list-style-type: none"> ○ 森と海で集めたモノを使い、絵を作る ○ 家族ごとに作り、最後は発表してもらう ○ その他のポイントと、どこで拾ったか、それは何か ※モノも見方が変わるので、ゴミを出さないために自分自身にできることを考えてもらう ※森と海は相互に関係していることを伝える
16:30	終了 ● 次の時間のアナウンスをする。

2

↑写真⑧：プログラムデザインシート

各プログラムで作成し、担当やボランティア、所全体で共有・可視化を図った。プログラムの目標、スタッフの動き、準備物、活動の具体的な内容等が書いてある。